

<東北地区納税貯蓄組合連合会長賞>

身近で支え、支えられる税

福島市立平野中学校

3年 ^{あべ}阿部 ^{かえで}楓

私はまだ「税金」と言われても、どのような仕組みなのかよくわからない。ただ、様々な形で私たちが納め、生活のために使われている、ということは知っている。

そんな多くの種類がある税金の中で、私に最も身近なものは消費税だ。買い物をすれば必ず5パーセントの消費税を払っている。

しかし、来年の4月には8パーセントの税率となる。税金が増えるということは今までよりも少し多く支払うということで、私は何となく増税してほしくないと思っていた。そもそも、何に使うために増税するのだろうか。

今朝の新聞に、生活保護費の引き下げにより、保護を受けて暮らす高校生の進学に影響が出ている、という記事が載っていた。卒業後の進学が厳しい人、部活に所属しながらもアルバイトとの両立で大変な人もいるということだった。私も来年高校生になる。もし、生活保護を受ける立場だったら。私は高校でも運動部に入りたい。勉強して大学にも進学したい。その中でアルバイトをして家にお金を入れなければならないと思うと私の想像以上に大変な生活なのだと思う。

生活保護は最低限の保障であり、高校就学に必要な費用も自立を支援するためとして給付されている。しかし、生活保護費は引き下げられ、アルバイトなどで収入を得ながらギリギリの生活をしている高校生、自分の進みたい進路に進むことができない高校生もいる。大人だったら仕事だけに集中し、生活費を得ることができる。しかし学生には学校生活もあるのだ。仕事と学校、どちらか一つでも大変なのに、その二つを両立させるのはどれほど難しいことなのだろうか。学生には学校生活に集中させることが最低限の保障になるそんな制度になってくれればと思う。

私は生活保護を受けていない。私の父も母も「行きたい高校に進みなさい。」と言っ

てくれる。当たり前のことのように感じているが、同年代で自分で自分の生活費をかせいでいる人や、自分の行きたい学校に行けない人がいるということを知り、恵まれているのだ、と感じた。そんなことを当たり前にするために、消費税を増税するのならば、私にもできることが増えるのだ。税金はほかのことにも使われるのだろうが、困っている人々のために有効な使い方をしてほしい。

かぜをひいたときの医療保険、私たちが使っている教科書も税金でまかなわれている。私は知らないところで税金に支えられているのだろう。そしてそれは、全国の人々が懸命に働き、納めたものなのだ。私も将来、勤労と納税の義務を果たせるようになりたい。支えられるだけでなく、支える側として。